

大分工業高等専門学校

足踏みミシンボランティア活動

高校生ボランティア・アワード2022

「足踏みミシンボランティア活動」 活動概要



足踏みミシンボランティア活動
Volunteer Activity on Repair Technology
of Foot-operated Sewing Machines



大分工業高等専門学校
OITA NATIONAL COLLEGE of TECHNOLOGY, JAPAN



大分工業高等専門学校(以下、本校という)では、2003年から現在まで、週1回の放課後に本校の足踏みミシンボランティア活動の学生たちが、大分県内外の家庭等から寄贈された古く壊れた足踏みミシンを分解・修理し、その足踏みミシンを東南アジア諸国の貧困層などに贈呈することにより現地の人々の生活および就労支援を図ることを目的とした学生参加型の国際ボランティア活動を行っています。

2007年からは修理した足踏みミシンを東南アジア諸国の貧困地域に贈呈するだけでなく、足踏みミシンボランティア活動の学生と教職員が贈呈先へ赴き、贈呈した足踏みミシンを用いて現地の人達に対して修理技術の指導を行うとともに現地の子供達と交流会を行っています。



2007年(タイ王国)



2008年(インドネシア)



2009年(マレーシア)



2013年(フィリピン)

「愛の精神」

本校の教育目的は「**人間性に溢れ国際感覚を備えた技術者の育成**」、教育目標の一つは「**愛の精神**」です。その教育理念に基づき、足踏みミシンボランティア活動は国際貢献と国際感覚の啓発、人間性を育む機会となっています。

同ボランティア活動を通じて、発展途上国の貧困層地域における人達の生活支援に役立っていることが実感でき、将来は、本校で学んでいる専門技術の知識を活かし、国内外の社会へ貢献できるエンジニアになりたいと思っています。



「発展途上国の貧困層支援」

本活動は、2007年にはタイ王国、2008年はインドネシア共和国、2009年と2010年はマレーシア、2011年から現在まではフィリピン共和国において活動を行っています。2003年から2022年までの19年間に亘る活動の実績としては、同活動に参加した学生の延べ人数は約300名、本校から東南アジア諸国の貧困地域等に贈呈した足踏みミシンは約300台、現地では壊れた足踏みミシン27台を修理しました。

現地の人達に対する修理技術の指導および交流会の後は、過去に贈呈した足踏みミシンの利用状況の確認を行います。数年前に足踏みミシンを贈呈した、ある地区では同ミシンを大事に使用しており、縫製作業中の女性達からは、贈呈した足踏みミシンを用いた縫製品の作製と販売により収入が得られるようになったことで、子供を学校に通わせていること、病弱な家族の人が病院で診察を受け、薬を購入できるようになったこと等、贈呈した足踏みミシンに対する感謝の気持ちを述べられました。

本活動は、第55回社会貢献者表彰(公益財団法人 社会貢献支援財団、2020年)、第20回西日本国際財団アジア貢献賞(公益財団法人 西日本国際財団、2019年)、国際交流基金・地球市民賞(独立行政法人国際交流基金、2013年)、大分市顕彰の日表彰式「善行表彰の部・団体」(大分市、2013年)、社会ボランティア賞「青少年の部」(財団法人ソロプチミスト日本財団、2009年)などを受賞し、テレビ、新聞等の報道に多数取り上げられて、本活動に対する認知度が向上し、県内外から足踏みミシンの提供を受けています。また、学内外の教育研究会や「おおいた国際協力啓発月間」(主催:大分市、JICA九州)などにおいて本事業の活動報告を行っています。



●活動を実施した国



「人間性の向上」

現在も大分県内外の方々からの善意で多くの古く壊れた足踏みミシンが寄贈されています。その足踏みミシンを修理し、少しでも東南アジアの貧困層の方々の生活支援ができるように、今後とも足踏みミシンボランティア活動に取り組みたいです。

また、本ボランティア活動を通して、**ボランティア精神**や**協働意識**等を高めて、**人間性に溢れた**人材になりたいと思っています。



交流会



集合写真



活動団体プロフィール

- ・発足:2003年
- ・活動参加学生延べ人数 (2003年~現在)
約300名
- ・2022年の部員数
男子学生13名 女子学生21名